

C-18 被服構成の基礎研究—衣服寸法のための身体諸尺度の因子分析—  
京都女大家政 ○山名信子 土井サチヨ

目的 衣服寸法の設定の基準を見出すために、数多くの身体測定項目の実測を行いその結果について検討を行ってきた。今回は身体各部位の測定値をもとに、主因子分析法を用いて、因子の特徴を明らかにするとともに、測定項目の簡略化、並びに代表測定項目を見出そうと試みた。

方法 研究資料は京都市近辺に在住する25~65才の男子518名、女子542名で1972年7・8月に測定した。測定項目は長径、周径、幅径、厚径、体重、肩傾斜角、皮下脂肪厚等で、男子68項目、女子62項目である。測定方法は工業技術院による日本人体格調査の計測方法に準拠し、若干の私見を加えた。年齢を5才毎に区分し、年齢群別、性別に身体諸尺度をもとに、各測定項目相互間の相関Matrixを作成し、主成分分析をおこなって、それぞれ因子の固有値と因子負荷量を算出した。

結果 固有値が1より大なるもの、因子を求めたところ、男子では10~13個、女子では9~10個で、全分散の約80~90%貢献量を示している。抽出された第1因子と第2因子と第3因子は、年齢群別、性別とも同じ傾向を示しているが、他の因子においては、やや傾向を異にしている。因子の解釈、並びに測定項目の選定について報告する。